

# 県外派遣審判員報告書

作成日 H30年 4月 1日

|  |                        |       |               |          |              |
|--|------------------------|-------|---------------|----------|--------------|
| 大会名  | ジュニア九州オールスターバスケットボール大会 | 会場    | 熊本県「大津町総合体育館」 |          |              |
| 期間   | 平成30年3月17日～平成30年3月18日  | 報告者   | 大山 早紀子        |          |              |
| スケジュール   |                        |       |               |          |              |
| 期日   |                        | 内容    |               | 場所       |              |
| 3月17日(土)   | 9時30分～                 | 大会1日目 |               | 大津町総合体育館 |              |
| 3月18日(日)   | 9時～                    | 大会2日目 |               | 大津町総合体育館 |              |
|  |                        |       |               |          |              |
|  |                        |       |               |          |              |
| 実技   | 割り当て                   | 大会1日目 | 沖縄 体 熊本B      | (主) 副    | 相手 中村(鹿児島C級) |
| <p>○ゲーム前(プレカンファレンス)</p> <p>県外チームの審判をすることが私は2回目、中村先生は初めてでありまずは鹿児島で経験してきた基準を基にジャッジしていくことを話した。その中で、ゲーム中に疑問に思うことなどはゲーム間やハーフの間で確認し修正できるところは修正・改善していくよう話した。まずは自分のプライマリーを確認し判定していくこと。以上のことを課題とした。</p>   |                        |       |               |          |              |
| <p>○ゲームの実際</p> <p>1Q沖縄と熊本Bのチームファウルに差があり、ゲーム間に起こったファウルの状況を確認し合った。沖縄と熊本Bで技術の差があり、沖縄のディフェンスに対して熊本Bのフィジカルが弱く倒れているのか確認しながらゲームを進めていった。</p>   |                        |       |               |          |              |
| <p>○ゲーム後(ポストカンファレンス)</p> <p>まずは課題とした自分のプライマリーの確認・判定に関してはお互い信頼しあい出来たが、6番エリアの協力という面で私がリードの際に渡って見に行っただけの方が良かった場面が数回あり、反省点として出したが中村先生はそこまで気にはならなかったとのことだった。ファウルに関しては、ゲーム間で話し合いながら確認できたため、今後の審判活動を通して知識を深めていきたいとしてゲーム後のカンファレンスを閉じた。</p>   |                        |       |               |          |              |
| 実技   | 割り当て                   | 大会2日目 | 熊本A 体 佐賀      | 主 (副)    | 相手 中川(熊本B級)  |
| <p>○ゲーム前(プレカンファレンス)</p> <p>熊本Aに背の高いセンターが2人いるためそこに対する佐賀のディフェンスの仕方をマニュアルに沿って判定していくこと。どちらも技術や能力には差がないため一つ一つ現象を確認しながら判定していくことを話し合った。</p>   |                        |       |               |          |              |
| <p>○ゲームの実際</p> <p>熊本Aのセンターが1人怪我をし、背の高いセンターが1人であった。1Qからプレカンで話していたセンターの現象が起きていた。1Qでなかなか切っていくことができず、4Qまでセンター通しの当たりあいが出ていた。どちらもファウルが多く4Q、チームファウルがたまり1点差の状況までいった。</p>   |                        |       |               |          |              |
| <p>○ゲーム後(ポストカンファレンス)</p> <p>センター通しの攻め合いが気になりすぎてしまい、パワードリブルに対する熊本Aのディフェンスをブロッキングで取り上げた際に会場の反応やベンチの反応全てが変わったことに気づき笛にするべきではない現象であったこと。4Q残り1分で佐賀が1点差で負けている状況、佐賀オフェンスの場面4番エリアの3ポイントラインでボールをもらった瞬間の熊本Aのディフェンスの当たり方がボールではなく人であり、そのままカットされ熊本Aのボールとなった。この時私が見ていた位置がボールマンに対して近づきすぎておりはっきり確認ができなかったこと。佐賀が1点差で負けており、どちらもチームファウルがたまっている状況からファウルを取り上げてフリースローを与えると、この大会としては盛り上がりがあったのではないかと。佐賀ベンチの前での現象であったことからベンチからのアピールの状況を確認できたかということ。主に以上のことを助言頂いた。</p> |                        |       |               |          |              |
| 全体を通しての感想  |                        |       |               |          |              |
| <p>今回初めて九州ジュニアに審判員として派遣させて頂き、県内とは違う県外のプレースタイルを見ることができ、実際に審判をして中学生でもハードにプレイすることから笛にすることの難しさを感じた。特に2日目の審判では1点差という接戦での審判であり会場や観客、ベンチの空気にもまれてしまう自分があり、メンタル面での弱さを実感した。また大会の主旨やゲームの流れを考えながら審判をしていくことの難しさを学んだ。判定に関しては助言を頂いたことを振り返り今後の審判活動に活かしたい。</p> <p>最後に、このような機会を与えて下さった県審判委員会や運営等様々な場面でお世話になった熊本県審判部の方々に感謝申し上げます。第16回ジュニア九州オールスターバスケットボール大会の報告といたします。</p>   |                        |       |               |          |              |